

令和元年度研究法研修会活動報告

テーマ：作業療法実践研究のすすめ

令和元年6月2日（日）鹿児島大学医学部保健学科を会場に令和元年度1回目の研究法研修会を行いました。テーマは「作業療法実践研究のすすめ」で講師は鹿児島大学医学部保健学科の奈良進弘先生に行っていただきました。

初めに「ふらつきをどうやったら修正できるか?」「効果を示す方法は?」「医療従事者のやりがい?」「もっと効果的な方法は?」など臨床疑問は至る所に存在しているというところからお話をしていただきました。そして、疑問を解決する手段が研究であり、研究疑問の解決方法として文献研究、事例研究、調査研究、実験研究についても話していただきました。文献の使い方や検索の仕方、奈良先生ご自身の具体的事例を交えながら話をしていただき非常に分かりやすく、研究に対する意識が変わった方もいるのではないかと感じました。

後半は研究における倫理的配慮、説明と同意（インフォームドコンセント）、守秘義務、利益相反など研究を行う上で欠かせない部分について丁寧に説明していただきました。特に利益相反とは研究の中で、研究対象者の人権や安全・安心を守っていることを明らかにすることで、利益相反があること自体が問題ではない。重要なことは、利益相反があることを開示し、利益相反を適切に管理していくこととの話が印象的でした。

今回から研究法研修会でもweb受講が行えるようになり種子島と徳之島からもたくさん受講していただきました。特にサテライト会場からは活発な意見が多く聞かれ、認知症の方の同意のもらい方、倫理委員会がない場合の一つの方向性の提示など細かい疑問に対しても答えていただき非常に有意義な研修になったと思います。奈良先生ありがとうございました。

今後も研究法研修会では研究開始や論文作成の支援になるように内容を検討していきますので興味のある方のご参加をお待ちしています。

研究法研修会担当者

<受講生感想>

徳之島から、web聴講をさせていただきました。良質な環境を終始ありがとうございました。今回の研修で研究をはじめするためのヒントや文献検索の方法、著作権、インフォームドコンセントのことについて深く知り得ることができました。日頃患者様と接していて、どうしてだろう?どうやったらこの結果に結びつけたか?と、振り返り疑問に思うことが研究の第一歩に繋がる!と、感じました。同時に日々の臨床、生活の中に研究課題は転がっている。と、感じました。次の研修が楽しみです!

愛心園
作業療法士 壽 三佐子

